

後期次世代行動計画の事業における意見と対応について

意見	対応
<p>児童虐待の早期発見・早期対応・生まれる前からの発生予防の観点から、どこで母子手帳を配布しても母親の話が聞けるようにしてください。</p>	<p>○母子健康手帳の配布（内容） 妊娠届時の母子健康手帳配布時に分かりやすい情報提供を行います。その際、アンケートを全件実施し、特定妊婦などの早期発見・早期支援や児童虐待の予防を図ります。 また、配布時の相談を充実するため、保健センター分館での配布を積極的に推進していきます。</p>
<p>発達障害の児童は、検診で何らかの指摘を受けているケースが多いことから、未受診者の100%把握を目指すのではなく、必ず受診するように「未受診者0人」としてください。</p>	<p>○3～4か月児健康診査・産婦健康診査（内容）、1歳6か月健康診査（内容）、3歳児健康診査（内容） 健康診査により、疾病や障害等の早期発見・早期対応を図ります。また、育児不安の解消及び親子の交流の場として活用し、子育て相談や子育て情報提供を行います。 子ども一人ひとりを大切にするため、健康診査データを管理し、未受診者0（ゼロ）を目指すことにより、児童虐待の予防や養育困難家庭への早期支援を図ります。 また、要支援児童については、適切な支援ができるよう関係機関との連携を図ります。 ○（平成26年度目標） 未受診者0（ゼロ）を目指す</p>
<p>健康診査などで得た情報については、できるだけ早い時期からの支援をという考えから、関係機関との連携ができるようにつなげてください。</p>	<p>○発達健康診査（内容） 健康診査や相談事業の結果、運動発達遅滞、精神発達遅滞などが疑われる乳幼児に重点をおいて、発達健康診査を行い、早期発見、早期療育へとつないでいけるよう支援します。 また、適切な支援ができるよう関係機関との連携を図ります。</p>
<p>健康診査未受診者や予防接種未接種者は、児童虐待やDVとのつながりが多いので、早期発見・早期支援ができるようにしてください。</p>	<p>○定期予防接種（内容） 予防接種の意義と方法をさらに周知徹底して、標準接種年齢における接種率95%を目指します。未接種者については、児童虐待の予防も視野に入れ、速やかに指導できる体制を整えるとともに、対象者への通知などの拡充を図っていきます。</p>
<p>「子育てサイトの充実」はパソコンだけでなく、携帯も活用してください。</p>	<p>○子育てサイトの充実（内容） パソコンや携帯を活用し、子育て団体のホームページにおいて子育て家庭が意見交換できるよう、コミュニティサイトの充実を図ります。</p>
<p>「子育てボランティアの育成」については、社会福祉協議会においてもコーディネートなどを協力いたします。</p>	<p>○子育てボランティアの育成（内容） 社会福祉協議会と連携し、子育て支援事業などへのボランティアの受け入れや活動の場を提供するとともに、地域の子育てひろばやサークルの活動を支援するボランティアの育成を行います。</p>
<p>「中学校部活外部指導員」の選任について、教育委員会（市）が関わり指導員の選出や登録ができないでしょうか？</p>	<p>○中学校部活動外部指導員（内容） 地域の人々に部活動の指導員になっていただくことにより、市立中学校における部活動の振興を図ります。 幅広く人材を確保するために、人材バンクの登録も視野に入れて取り組んでまいります。</p>

意見	対応
<p>子どもの視点から安全安心のまちづくりをする「ユニバーサルデザインの推進」や「公園・緑地」については、重点事業としてください。</p>	<p>○ユニバーサルデザインの推進 (区分) 「重点」とします。 (目標) 子どもの視点に立ったデザインの充実</p> <p>○公園・緑地 (区分) 「重点」にします。 (目標) 子どもが安心して楽しく利用できる公園整備 (体系の位置) 公園・緑地はユニバーサルデザインの推進として整備しているのではなく、利用者が安全に利用できることを配慮して整備していることから、事業の体系の位置を(1)から(2)へ移します。</p>
<p>「放課後子ども教室」の目標で「連携を検討していきます」はおかしい。</p>	<p>○放課後子ども教室事業(目標) 「連携をすすめる」に変更します。</p>
<p>親の自転車マナーについての教育もしてください。</p>	<p>○新たに加える事業 (事業名) 交通安全講習会 (内容) 自転車などの交通安全講習会を、警察署や交通安全協会などと連携して実施し、マナーの向上やルールの遵守に関する意識啓発を図ります。 (現状) 各文化センター(押立・四谷を除く)春・秋 年2回</p> <p>○自転車の安全利用の推進(内容) 中学生を対象に、交通安全対策を通じて、生命の大切さを考える機会を提供します。スケアードストレイト教育技法(スタントマンによる交通事故を再現することで、自転車のルール違反がなぜ危険なのかを生徒に視覚的に理解させる)を実施し効果を高めます。 また、PTAにも参加を得て、交通安全対策の充実を図ります。</p>
<p>中高生があまり規制なく居場所となる場所を作ることはできませんか。</p>	<p>府中市では、中高生の場所提供として、図書館・生涯学習センターなど市のさまざまな施設がその機能を果たしており、若者自身がそれぞれの関心に応じた利用をしていることから、新たな場所を作る予定はありません。</p>